

要旨

研究テーマ「超高速開発 VS アジャイル開発」

1. はじめに

昨今、システム開発において「超高速開発」・「アジャイル開発」というキーワードをよく耳にするようになってきている。その背景には、ビジネス環境の急激な変化があると考えられる。ビジネスを支える情報システムにおいても同様に急激な変化が求められる。具体的には、「高い生産性」・「変化への対応能力」・「高品質」が挙げられる。これを実現するための解として登場してきたのが、より高い生産性をもたらす開発ツールである超高速開発ツールやアジャイルと言われる開発手法である。

現在の企業経営者が情報システムに求めるニーズを満たすためには、「超高速開発」や「アジャイル開発」を積極的に導入すべきかを研究を通してあらゆる角度で考察し明確にしていく。

2. 目的・目標

目的は「超高速開発とアジャイル開発を適用できるシステム開発プロジェクトの明確化」とした。脚光を浴びているツール・手法であることは理解しているが、具体的に導入を検討する場合、果たして自社のプロジェクトに向いているのかというところが障壁になる。

そこで目的を達成するための目標として、「自社で活用できる【診断表】の作成」を掲げた。【診断表】によって積極的に導入すべきかどうか判断できることを目指す。

3. 前提条件

- ・「アジャイル開発」においては、企業の基幹系システム開発に要素を組み込んだ「エンタープライズアジャイル」とする。
- ・超高速開発ツールは、無償で使用できる「Wagby」・「OutSystems Platform」を進める。
- ・【診断表】は、システム企画や開発に従事する担当者向けとし、使用するタイミングは、「プロジェクトメンバー」を集める前とする。また、対象システム（案件）はエンタープライズ系システムの新規開発もしくは既存システムリプレイスとする。

要旨

4. 研究の方向性

アジャイル開発は全般的なシステム開発における考え方を指しており、超高速開発は、ツール前提の具体的な開発手法を指している。二つは対立関係ではなく、補完関係ではないかと考えられる。従って、研究の方向性として「対立」ではなく「融合」という観点で進める。

5. 仮説

超高速開発とアジャイル開発を適用できるシステム開発プロジェクトを【診断表】の活用により明確にできる。

6. 仮説検証

- ・【診断表】の設問を「超高速開発」・「アジャイル開発」という切り口で抽出する。
- ・抽出した設問について、事例収集を通して設問毎に効果・信憑性の裏付けを行う。
事例数は50社とする。
- ・「設問分類」・「設問の詳細分析(設問数・点数)」を実施し、診断表を考察する。
- ・メンバー各自、診断表で診断を実施し、期待通り診断できているかどうか検証する。

7. まとめ

【診断表】を活用することで、超高速開発とアジャイル開発を適用できるシステム開発プロジェクトを明確にできる。同時に現在の課題(体制・方針)も明確にできる。これからシステム開発プロジェクトを始める担当者が、積極的に超高速開発とアジャイル開発の導入を図るために役立たせていただきたい。

8. 商標

- ・Wagby は株式会社ジャスミンソフトの登録商標です。
- ・OutSystems Platform はポルトガル共和国 OutSystems, Inc. が開発元で、株式会社 BlueMeme が国内販売元です。
- ・その他記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。